

次世代研究者挑戦的研究プログラム(JST事業)

“シン・文殊グループ”を核とする異分野
融合研究実践型博士後期課程
学生育成プロジェクト

山口大学

事業統括 学長特命補佐(博士学生育成担当)

堤 宏守

最初に

- 質問などは、Q&Aをよく読んでから、メールにてお寄せください。(宛先は募集要項に記載しています。)
- いただいた質問は、Q&Aに追加する形で、各研究科の担当者に送付します。また、キャリアパスデザイン推進室のWebページに掲載します。
- If you have any questions, please read the FQA carefully and then send us an email. (The address is described in “Application Guidelines”.)
- The answers to your questions will be added to the revised FQA and sent to the office at each graduate school. It will also be posted on the website of the Career Path Design Promotion Office. (<http://career.gse.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>)

説明のながれ

1. 本事業の目指すもの
2. 本事業の概要
3. 今年度の募集人数
4. 本事業に応募するにあたっての注意事項
5. 選抜学生の責務

募集要項、Q&Aを必ず読んで理解すること。

『やまぐち未来創発塾』の内容も良く理解すること。

説明会後に出た質問などの回答は、別途、Webに掲載や各研究科の担当と情報共有します。

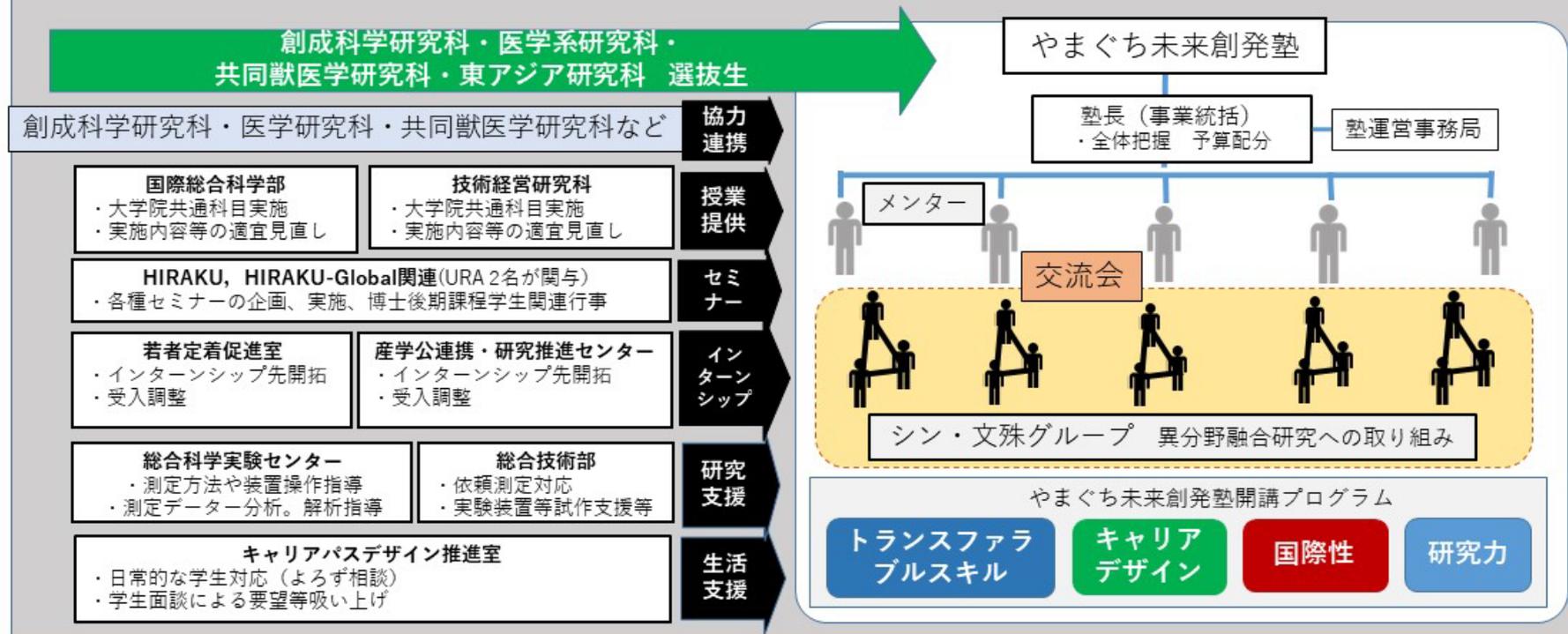
1. 本事業が目指すもの

- 博士後期課程（4年制博士課程を含む）学生による従来の枠組みにとらわれない自由で挑戦的・融合的な研究を支援
- 生活費相当額＋研究費を支援することで、上記の研究に専念することを支援
- 多様なキャリアパスで活躍できる博士人材を育成（特にトランスファラブルスキルの涵養・実践を重視）

単なる経済支援制度では無いので注意すること
詳細は、募集要項及びやまぐち未来創発塾の説明をよく読んでください。

2. 山口大学における事業内容

育成する人材像：自らの専門を持つと共に異分野融合研究を実施するための基本的なスキルとイノベーションマインドを持った研究者・高度専門職業人の養成

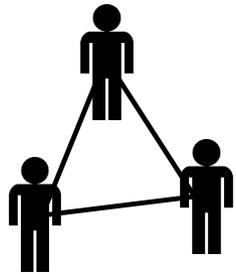


- 選抜された学生は『やまぐち未来創発塾』塾生となり経済支援を受けるようになります。
- 塾生は本塾の開講プログラムを受講することや、シン・文殊グループ活動に参加する義務が生じます。
- 教育プログラム受講が不十分だったり、シン・文殊グループ活動に積極的に参加しなかった場合は、塾生の資格を失い経済支援も受けられなくなります。

本塾の開講プログラム概要

- 創成科学研究科において実施されている大学院共通科目・イノベーション教育科目中の科目（各大学院にて受講科目や履修科目数を別途指定）を受講
- 学内で開催される各種セミナー（例：HIRAKU-Globalが主催する『英語論文執筆セミナー』など）を受講
- インターンシップや海外大学における研究活動への参加
 - インターンシップについては、受入企業とのマッチングが必要なので、今後、調整予定
 - 海外大学における研究活動については、各研究科や各研究室のネットワークを積極的に利用して実施して欲しい。（支給研究費は旅費としても使用可能。海外出張などを考えている場合は、その年度の研究費使用計画書に記載・計上すること。）

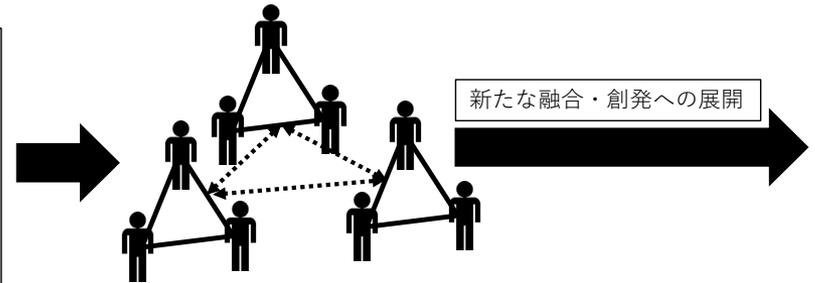
シン・文殊グループ概要



分野・学年の異なる3人組

グループの活動

- ・自己紹介
- ・自分の研究を分野の異なる人に分かりやすく説明
- ・自分の強み、他のメンバーの強みを把握
- ・これらを踏まえて、異分野融合型研究を提案
(提案に対して研究費を配分)
- ・その他、グループ活動
- ・主にオンライン会議システムを使用して活動



シン・文殊グループ交流会・研究発表会の実施
(グループ同士の情報交換・活性化)

- ・本塾において涵養を目指す能力（トランスファラブルスキルなど）の実践の場として設定しています。
- ・また、異分野融合型研究の提案の場としての活動も求められます。
- ・この活動への参加が極めて重要かつ必須です。
- ・この活動への参加が積極的で無かったり、不十分だったりは、塾生としての資格を失い経済支援対象から外れます。
- ・目安として月に1～2回以上は、グループとして上記の活動を行う。
- ・オンラインによる活動を主に予定しており、グループ活動状況を必ず録画、これを事業統括に提出することで、各グループの活動状況確認とする予定です。

3. 募集人数

- 本支援制度では（3年制、4年制 両博士後期課程、博士課程）最大36名の学生を支援します。
- 上記の人数は全学年の合計人数です。
- 毎年、約12名を新規に募集予定です。詳しくは、募集要項をみてください。
- なお、社会人学生や国費留学生などは応募できません。詳細は募集要項をご覧ください。

4. 本事業に応募するにあたっての注意事項

- 詳細は募集要項に記載があるので、熟読してください。
- 募集要項や申請書の英語版もあるので参考にしてください。
- 申請書本文は英語で記載してもかまいません。この場合もページ数の制限やフォントサイズは厳守してください。
- 特に重要な点
 - 対象学生『博士後期課程修了後、我が国の科学技術・イノベーションの創造に直接関わる意思を持つ者』であること。
 - 申請書の上部の四角部分の注意書きも十分参照し、申請書を記載すること。
 - 審査の観点を必ず読み、それを参考に申請書を記載すること。

審査の観点（募集要項にも記載があります。）

(1) 博士後期課程における研究計画

- ・応募者の研究背景、研究目的、研究内容などを分かりやすく説明できているか。
- ・研究テーマ設定に応募者の自主性、独立性がみられるかどうか。
- ・研究計画は妥当な内容かどうか。

(2) 異分野融合研究に関する応募者のアイデア・考え方

- ・異分野融合研究として提案した研究テーマが優れているか。
- ・異分野融合研究に対して応募者なりの考えを持っているか。
- ・異分野融合研究に対して応募者が貢献できそうな点を明確に認識（説明）しているか。
- ・異分野融合研究に対する熱意や参加の積極性が応募者にみられるか。

(3) 自己分析

- ・自己分析に基づいて何をすべきかが明確に分かっているか。

(4) 応募者の目指す将来像

- ・将来、我が国の研究・イノベーションの発展に寄与できそうか。
- ・将来、我が国の研究・イノベーションの発展に対する強い意欲があるか。
- ・自分のキャリアパス形成に関して強い意志があるか。

日本学術振興会 特別研究員申請書に近い内容ですが、分かりやすく記載することを心がけてください。

(2) や (4) は、本事業の主旨と密接に関係があるので、よく考えて記載してください。

5. 選抜学生の責務

- やまぐち未来創発塾による各種開講プログラムの受講及びシン・文殊グループの活動に積極的に参加すること。
- 研究を行うにあたって、本学が定める諸規則を遵守すること。
- 研究倫理教育eラーニング (eAPRIN) 及び公的研究費の不正防止計画に基づく研修会を受講すること。
- やまぐち未来創発塾の育成効果の検証のため、卒業後10年程度の間、JSTや本学が実施するキャリア追跡調査に協力すること。

その他のお願い

- 人数枠があるので応募者全員を採択できないことがあります。ご容赦ください。
- 選抜されなかった場合にも、キャリアパスデザイン推進室は、博士後期課程学生の支援やよろず相談を受け付けています。
- 博士後期課程学生への支援は、大学としても種々検討、整備拡充する予定です。様々な支援に関する大学からの情報を見落とさないように注意してしてください。
(例:山口大学基金『若手研究者による研究プロジェクトに対する助成事業』など、博士後期学生も応募可能な研究費支援があります。)

応募にあたっての質問など

- 学生支援課学生サービス係
- メールアドレス gal13@yamaguchi-u.ac.jp
- メールの件名 『【質問 やまぐち未来創発塾】
〇〇〇〇について』
- Mail title 『Q YFCS ……』
- ただし『 』は除く (Please remove 『 』)
- いただいた質問に対しては、基本的に個別回答ではなくQ&Aを更新・追加する形で回答します。
- 更新したQ&Aは、各研究科の担当者に連絡すると共にキャリアパスデザイン推進室のWebに掲載予定です。

(<http://career.gse.yamaguchi-u.ac.jp/index.html>)

- 皆さんからの積極的な応募をお待ちしています。



參考資料

Appendix

【参考】 語句説明

- トランスファラブルスキル:別の職場への異動や転職をした場合、そこで転用・応用できるスキルを指す言葉。トランスファラブルスキルには、大きく分けて、多様な情報の中から課題を捉え、仕事の段取りを組み立てて実行する「対課題スキル」、課題に対して主体的に取り組み、成果を上げるために自らをコントロールする「対自己スキル」、チームでのコミュニケーション力や交渉力など、仕事で成果を出すための人間関係を構築する「対人スキル」の3つがある。